

あいちトリエンナーレ実行委員会 運営会議次第

日時：平成30年3月22日（木）

午後1時30分から

場所：愛知県庁本庁舎正庁（6階）

1 開 会

2 議 事

議案1 あいちトリエンナーレ2019の開催概要について

議案2 平成30年度事業計画及び収支予算について

議案3 あいちトリエンナーレ実行委員会規約の一部改正について

3 その他

4 閉 会

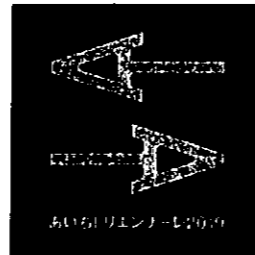
<配布資料>

出席者名簿

資料1：議案1 あいちトリエンナーレ2019の開催概要について

資料2：議案2 平成30年度事業計画及び収支予算について

資料3：議案3 あいちトリエンナーレ実行委員会規約の一部改正について



議案1 あいちトリエンナーレ 2019 の開催概要について

1 開催概要

- ◇開催目的
- ・新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献します。
 - ・現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図ります。
 - ・文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図ります。

◇名称 あいちトリエンナーレ 2019/Aichi Triennale 2019

◇テーマ 情の時代
Taming Y/Our Passion

◇芸術監督 津田 大介
(ジャーナリスト/メディア・アクティビスト)

◇会期 2019年8月1日(木)～10月14日(月・祝) [75日間]

◇主な会場 愛知芸術文化センター
名古屋市美術館
名古屋市内のまちなか(四間道・円頓寺地区など)
豊田市(豊田市美術館及びまちなか)

- ◇事業展開
- ・「現代美術」を基軸としながら、演劇や音楽プログラムなどの「舞台芸術」も展開します。
 - ・「まちなか」でのパフォーマンスや作品展示などを展開します。
 - ・県内での「広域展開」を図ります。
 - ・幅広い層を対象とした「ラーニング」を展開します。
 - ・多様な主体との「連携」による事業を展開します。

◇主催 あいちトリエンナーレ実行委員会

2 企画概要

◇現代美術

国際現代美術展

- ・国内外の 60 組程度のアーティスト・団体の作品を展示し、最先端の現代美術を紹介します。
- ・愛知県美術館を含む愛知芸術文化センターを中心に、名古屋市美術館、名古屋市内のまちなか(四間道・円頓寺地区など)、豊田市内(豊田市美術館及びまちなか)での作品展示など、広域に展開します。

映像プログラム

- ・国内外の 10 組程度のアーティスト・団体の映像プログラムを、愛知芸術文化センターを中心に上映します。

◇舞台芸術

パフォーミングアーツ

- ・国内外の 10 団体程度の先鋭的な演劇などの作品を、愛知芸術文化センターを中心に、まちなかでも上演します。

音楽プログラム

- ・愛知芸術文化センターやオアシス21などを一体として、回遊しながら楽しむことができる、美術と音楽の垣根を越えた、祝祭感のある「音楽プログラム」を開催します。

◇ラーニング

- ・「受けとる、深める、形にする」をキーワードとし、作品の社会的・文化的な背景を掘り下げながら、来場者が互いに学びあうためのプログラムや、子どもも大人も一緒になって遊びながら学び、創造性をより身近に楽しむことのできる体験型のプログラムなどを行います。

- ・児童・生徒に、最先端の現代芸術に触れてもらうため、学校向け団体鑑賞プログラムやアーティスト派遣事業などを行います。

※知識、経験、年齢によらず、来場者の誰もが主体的に学びあう事業へと展開するため、「普及・教育(エデュケーション)」から「ラーニング(Learning)」に改称します。

◇連携事業

モバイル・トリエンナーレ

- ・複数の参加アーティストによる短期間の展覧会を、県内数か所の文化施設などで巡回開催します。

舞台芸術公募プログラム

- ・企画公募により選考された地元文化芸術団体などと共催で、舞台公演を行います。

芸術大学連携プロジェクト

- ・地元芸術大学との連携による企画展示等を行います。

議案2 平成30年度事業計画及び収支予算について

(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)

1 平成30年度事業計画

現代美術、舞台芸術、ラーニング、連携事業など、「あいちトリエンナーレ 2019」の開催に向け、各事業の準備を進めるとともに、トリエンナーレへの期待や開催気運を高めるため、広報・PR等を実施する。

(1) 現代美術

国際現代美術展や映像プログラムの出品作家の選定（国内外から70組程度）、会場の選定、展示計画の作成、招聘作家の受入、作品制作の準備等

(2) 舞台芸術

パフォーミング・アーツ（10団体程度）や音楽プログラムの公演内容の決定、公演会場の調整等

(3) ラーニング

プログラム内容の決定、トリエンナーレスクールの開催（年10回程度）等

(4) 連携事業

モバイル・トリエンナーレの会場や出品作家の選定、舞台芸術公募プログラムに出演する地元文化芸術団体の決定、地元芸術大学との連携による「アートラボあいち」での企画展の開催等

(5) 広報・PR

WebサイトやSNSを活用した情報発信、ポスター・ちらし・広報グッズの作成・配布、記者会見の開催、新聞・雑誌等への広告掲載等

(6) その他

実行委員会運営会議等の開催等

2 平成30年度収支予算

(1) 収入の部

(単位：千円)

科目	予算額	摘要
1 負担金収入	130,008	
(1) 愛知県負担金	98,256	
(2) 名古屋市負担金	31,752	
2 諸収入	1	受取利息収入
収入の部 合計	130,009	

(2) 支出の部

(単位：千円)

科目	予算額	摘要
1 事業費	126,759	
(1) 現代美術	59,600	芸術監督・キュレーター費、アーティスト招聘旅費、作品制作費等
(2) 舞台芸術	10,666	キュレーター費、アーティスト・団体招聘旅費、舞台設計・作品制作費等
(3) ラーニング	7,116	キュレーター費、トリエンナーレスクール開催費、資料作成費等
(4) 連携事業	12,796	舞台芸術公募プログラム出演団体募集・選定費、アートラボあいち運営費等
(5) 広報・PR	36,581	各種PRグッズ・チラシ・ポスター等制作費、PRイベント開催費、新聞・雑誌等広告掲載費、ホームページ管理運営費等
2 管理費	3,250	運営会議開催費、事務機器リース費等
支出の部 合計	130,009	

3 企画推進体制

【芸術監督】 津田大介 TSUDA Daisuke



1973年東京都生まれ。ジャーナリスト/メディア・アクティビスト。インターネットメディア「ボリタス」編集長。(一社)インターネットユーザー協会(MIAU)代表理事。早稲田大学文学学術院教授。早稲田大学社会科学部卒業。大学在学中よりIT関連のライターとして執筆活動を、2003年からはジャーナリスト活動を開始。メディア、ジャーナリズム、IT・ネットサービス、コンテンツビジネス、著作権問題などを専門分野に執筆活動を行う。ソーシャルメディアを利用した新しいジャーナリズムをさまざまな形で実践。第17回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門新人賞受賞(2013年)。

【企画アドバイザー】 東浩紀 AZUMA Hiroki



1971年東京都生まれ。作家/批評家。株式会社ゲンロン代表。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了。博士(学術)。1993年に批評家としてデビュー。専門は現代思想、表象文化論、情報社会論。著書に『存在論的、郵便的』(新潮社、サントリー学芸賞)、『動物化するポストモダン』(講談社)、『クオンタム・ファミリーズ』(新潮社、三島由紀夫賞)、『一般意志2.0』(講談社)、『ゲンロン0 観光客の哲学』(ゲンロン、第71回毎日出版文化賞)など多数。

【チーフ・キュレーター(学芸統括)】 飯田志保子 IIDA Shihoko



1975年東京都生まれ。キュレーター。名古屋を拠点に活動。1998年開館準備期から11年間東京オペラシティアートギャラリーに勤務。主な企画は「ヴォルフガング・ティルマンス—Freischwimmer」(2004年)、「トレース・エレメンツ—日豪の写真メディアにおける精神と記憶」(2008年/パフォーマンス・スペース、シドニー、2009年)など。2009年から2011年までプリズベンのクイーンズランド州立美術館/現代美術館内の研究機関ACAPAに客員キュレーターとして在籍後、韓国国立現代美術館2011年インターナショナル・フェローシップ・リサーチチャーとしてソウルに滞在。帰国後「第15回アジア・アート・ビエンナーレ・バンラデシュ2012」(日本公式参加)、「あいちトリエンナーレ2013」、「札幌国際芸術祭2014」など国際展のキュレーターを歴任。2014年4月から2018年3月まで東京藝術大学准教授。アジア地域の現代美術、共同企画、美術館やビエンナーレをはじめとする芸術文化制度と社会の関係に関心を持ち、ソウル、オーストラリア、ニューデリー、ジャカルタ各地域で共同企画展を実践している。

【キュレーター(国際現代美術展)】 ホウ・ハンルウ HOU Hanru



1963年中国広州生まれ。パリとサンフランシスコを拠点として美術批評と展覧会企画を中心に活動し、近年はローマ在住。イタリア国立21世紀美術館アーティストティック・ディレクター、ならびにソロモン・R・グッゲンハイム美術館ロバート・H・N・ホー・ファミリー財団中国美術イニシアティブ コンサルティング・キュレーター。中央美術学院(北京)卒業(1985年学士、1988年修士)。代表的な展覧会企画には、「移動する都市」(1997-2000年)、上海ビエンナーレ(2000年)、光州ビエンナーレ(2002年)、三度のヴェネツィア・ビエンナーレ[フランス館(1999年)、「Z.O.U.—Zone Of Urgency」展(2003年)、中国館(2007年)]、イスタンブール・ビエンナーレ(2007年)、リヨン・ビエンナーレ(2009年)など多数。近年では「香港—深圳 都市・建築ビエンナーレ」(2017年)、「Art and China after 1989, Theater of the World」(2017年)を企画。また、世界各地の美術館や教育機関でのレクチャーや助言、アドバイザーを務めるなど、幅広く活躍。(foto Musacchio Ianniello, courtesy Fondazione MAXXI)

【キュレーター(国際現代美術展)】 能勢陽子 NOSE Yoko



岡山県生まれ。愛知県を中心に活動。豊田市美術館学芸員。1997年より現職。これまで企画した主な展覧会に、「テーマ展 中原浩大」(豊田市美術館、2001年)、「ガーデンズ」(豊田市美術館、2006年)、「Blooming: 日本—ブラジル きみのいるところ」(豊田市美術館、2008年)、「Twist and Shout Contemporary Art from Japan」(バンコク・アート&カルチャーセンター、2009年、国際交流基金主催・共同企画)、「石上純也—建築の新しい大きさ」展(豊田市美術館、2010年)、「反重力」展(豊田市美術館、2013年)、「杉戸洋—こっぴとあまつぶ」展(豊田市美術館、2016年)、「ビルディング・ロマンス」(豊田市美術館、2018年)など。美術手帖、WEBマガジンartscape等にも、多数執筆。

【キュレーター(国際現代美術展)】 ペドロ・レイエス Pedro REYES



1972年メキシコ・シティ生まれ。同地在住。建築を学び、彫刻、構造物、プロジェクトなどを通じ、演劇、心理学、アクティビズムの要素を取り入れた様々な形態の作品を発表。主な作品は、回収した銃をシャベルに変え植樹と展示を行う「Palas por Pistolas」(バンクーバー美術館、2008年)、銃器を楽器に変えた「Disarm」(リッソン・ギャラリー、2013年)のほか、「Sanatorium」(グッゲンハイム美術館、2011年)、「pUN(人々の国際連合)」(クイーンズ美術館、2013年、金沢21世紀美術館、2015年)など。2015年米國務省アーティスト・メダル、フォード財団特別研究員、2016年秋にMIT(マサチューセッツ工科大学)の客員学者となり、現在は同大学アート・科学・技術センターのダーシャ・ジュコワ名誉客員アーティストを務める。キュレーターとしても活動、これまでに数多くの展覧会を手がけている。

【キュレーター(国際現代美術展)】 鷲田めるろ WASHIDA Meruro



1973年京都府生まれ。金沢市在住。2018年3月まで金沢21世紀美術館キュレーター。1998年東京大学大学院美術史学専門分野修士課程修了。専門は美術史学(現代美術)、博物館学。地域や参加をテーマに現代美術・建築の展覧会・プロジェクトを手がける。主な企画に「金沢プラットホーム2008」(金沢21世紀美術館)、妹島和世+西沢立衛/SANAA(2005年)、アトリエ・ワン(2007年)、イエッペ・ハイン(2011年)、島袋道浩(2013年)、坂野充学(以上金沢21世紀美術館、2016年)、越後正志(ギャラリー無量、2017年)の個展などがある。2007年、非常利団体CAAK, Center for Art & Architecture, Kanazawaを共同設立し、2017年の解散までボードメンバー。第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展日本館キュレーター(2017年)。

【キュレーター(映像プログラム)】 杉原永純 SUGIHARA Eijun



1982年福井県生まれ。山口情報芸術センター[YCAM]キュレーター(映画・映像表現)。2005年東京藝術大学美術学部芸術学科卒業。2007年同大学大学院映像研究科修士課程映画専攻製作領域(現プロデュース領域)修了。2011年東京・渋谷にオープンしたミニシアター「オーディトリウム渋谷」(2014年閉館)プログラム・ディレクターとして、インディペンデント映画の潮流を積極的に紹介し、並行して古今東西の特集上映プログラムを組む。2014年より山口情報芸術センター[YCAM]に就任。映画上映プログラム「YCAMシネマ」や、ライブ音響で映画を鑑賞する「YCAM爆音映画祭」などのイベント上映のプログラム選定を担当している。2015年よりYCAMにて映画作品をプロデュースするプロジェクト「YCAM Film Factory」を立ち上げ、映画作品およびインスタレーション作品のキュレーションを行っている。(撮影:Gottingham 写真提供:山口情報芸術センター[YCAM])

【キュレーター(パフォーミングアーツ)】 相馬千秋 SOMA Chiaki



1975年岩手県生まれ。東京都在住。NPO法人芸術公社 代表理事/アートプロデューサー。早稲田大学第一文学部卒業。リュミエール・リヨン第二大学文化人類学・社会学大学院DESS課程修了。横浜の舞台芸術創造拠点「急な坂スタジオ」初代ディレクター(2006-2010年)、国際舞台芸術祭「フェスティバル/トーキョー」初代プログラム・ディレクター(F/T09春-F/T13)、文化庁文化審議会文化政策部会委員(2012-2015年)などを経て、2014年NPO法人芸術公社を設立、代表理事に就任。2015年フランス共和国芸術文化勲章シュヴァリエ受章。2016年より立教大学現代心理学部映像身体学科特任准教。2017年より「シアターコモンズ」実行委員長兼ディレクターを務めるなど、演劇、美術、社会関与型アートなどを横断するプロジェクトのプロデュースやキュレーションを国内外で多数手掛けている。

【キュレーター(音楽プログラム)】 大山卓也 OYAMA Takuya



1971年北海道生まれ。北海道大学文学部卒業。株式会社ナターシャ創業者。株式会社メディアワークス(現KADOKAWA)にて7年間にわたり雑誌やウェブメディアの編集を手がけ、2006年に代表取締役として音楽ニュースサイト「ナタリー」などを運営する株式会社ナターシャを設立。2007年2月から自社運営のニュースサイト「ナタリー」をスタートさせる。2017年2月、ナタリー10周年を機に取締役会長に就任。

【キュレーター(ラーニング)】 会田大也 AIDA Daiya



1976年東京都生まれ。情報科学芸術大学院大学[IAMAS]卒業後、2003年から2014年までメディアアートをテーマとした山口情報芸術センター[YCAM]に教育普及担当として勤務。鑑賞プログラムや市民参加プログラム、メディアワークショップや公園型展示作品の企画運営を行う。これらの事業でキッズデザイン賞大賞やグッドデザイン賞、メディア芸術祭など受賞。2013年に、国際交流基金による日・ASEAN友好協力40周年記念日本と東南アジアを巡回するメディアアート展「MEDIA/ART KITCHEN」に、7カ国13名のキュレーターチームの一員として協働した。2014年より東京大学リーディング大学院プログラムGCL-GDWS特任助教として、ワークショップデザインを教える。

【公式デザイナー】 前田豊 MAEDA Yutaka



1972年大阪府生まれ。氏デザイン株式会社代表取締役。京都工芸繊維大学卒業後、廣村デザイン事務所などを経て、自身の事務所を設立。グラフィックデザインを軸に、VI(ビジュアル・アイデンティティ)やエディトリアル、パッケージデザインや空間デザインなど幅広い分野で活躍。主な実績に「黄金町バザール」(2013~2017年)、「宇宙と芸術展」(森美術館)、「西洋更紗トワルド・ジュイ展」(Bunkamura)等。日本サインデザイン大賞・経済産業大臣賞受賞(2012年)。